

5 防護柵設置による野生獣害軽減効果

ねらいと成果

中山間地域では、野生鳥獣による農作物の被害が増加傾向にあり、大きな問題となっている。広域防護柵の設置は最も効果的な対策であるが、その設置効果への農家側の評価は明らかでなかった。今回、広域防護柵を設置した集落に対して、前後の被害量の推移および農家の意識調査を行った。その結果、柵の設置により被害は大幅に減少しており、この効果に対しての農家の満足度は高いことがわかった。

内容

1 調査方法

調査対象は、氷上郡の一集落であり、2001年6月に防護柵を設置した。柵は、高さ1.8mの金網柵で、地域を取り囲むように1.4kmにわたって設置された。被害の実数の推移については、当該集落を管轄するH町の統計資料によった。また、農家意識調査は、集落の全農業者33戸に対してアンケート形式で行った。主な調査項目は、被害程度等についての柵の設置前後の比較、柵の設置によって変わったこと、お

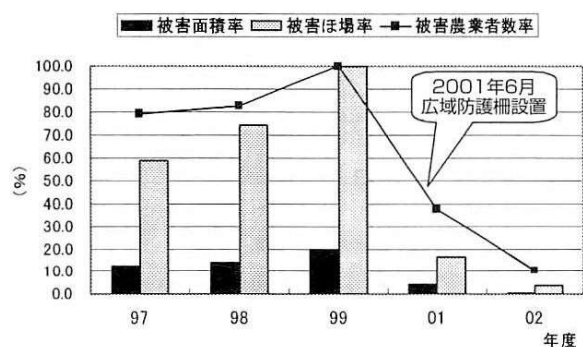


図1 防護柵設置前後の被害の推移

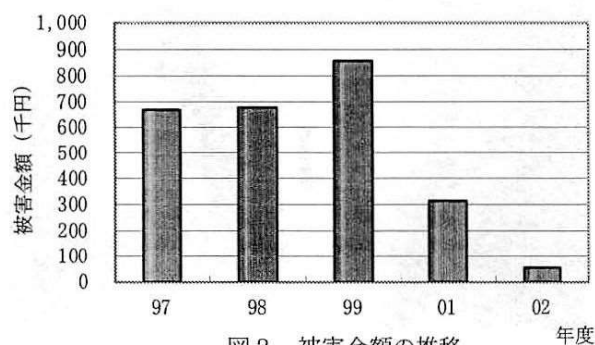


図2 被害金額の推移

よびその変化に対する満足度である。

2 防護柵設置前後の被害の推移

99年度の被害ほ場率は100%、被害面積率は20%であったのに対し、防護柵設置年の01年度には、それぞれ17%、4%に大幅に低下した。また、99年度には全農業者に被害があったが、01年度には37%と、1/3近くにまで減少した(図1)。

被害金額も減少し、99年度の860万円から、01年度・320万円、02年度・58万円となった(図2)。

3 農家に対する意識調査

野生獣による被害全体の量について、8割近くが減少したと評価しており、効果なしとした回答(「変わらない」を含む)を大きく上回った。

効果に対する満足度は、柵の被害軽減効果については約7割が満足と回答した。一方、金銭的、労働的に負担が増えたことについては、不満を感じる回答が約半数あった。個人対策の負担減少効果に対しては、約半数が満足と回答した(図3)。

普及上の注意事項

1 防護柵設置直後には、柵の内側にシカが取り残されたり、イノシシにより柵が破られるなどの被害が発生する。これらへの対策を、追加的に実施し続けることで、被害軽減効果が安定してくる。

2 柵の設置にあたっては、受益者全員に対し、柵のみで被害が皆無にはならないこと、継続的なメンテナンスや、細かな対策など最小限の負担は不可欠なことなど、事前に十分に説明し、納得してもらう必要がある。

山本 晃一(農業技術 経営・機械部)

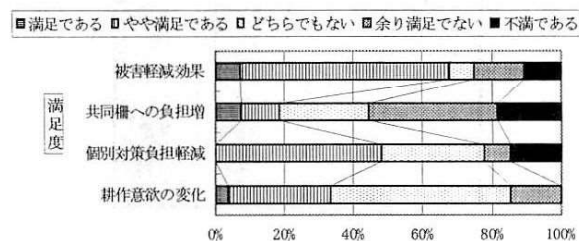


図3 効果に対する満足度